

令和7年度 埼玉大学工学部第1回FD部会 議事要録

日時 令和7年5月28日（水）13時00分～14時00分

場所 工学部研究交流サロン室（情報工学科棟）

出席者 後藤 祐一 部会長、安武 幹雄 副部会長、奥井 義昭 学部長、金子 裕良 副学部長、原 正之 教授、本多 善太郎 教授、八木澤 順治 准教授、山口 工学部係長、井田 工学部係員

1 前年度議事録の確認 【資料1】

資料のとおり。

2 教員相互授業参観（オープンクラス）の実施について 【資料2】

令和7年度の実施日程について、第2タームは6月23日（月）～7月4日（金）、第4タームは12月8日（月）～12月19日（金）に実施することが承認された。また、参観対象外科目については、6月6日（金）までのとりまとめがFD委員にお願いされた。

令和8年度の実施日程について、ローテーションにより第1・3タームに実施することが承認された。具体的な開催日は、FD部会長または工学部長により決定する旨が確認された。

3 2024年度「授業評価結果の点検報告書」の報告と承認について 【資料3】

2024年度第1・2ターム開講科目について、設問12「総合満足度本講義の平均値」が4.0未満の科目について、機械工学・システムデザイン学科、電気電子物理工学科、情報工学科、応用化学科、環境社会デザイン学科は学科ごとに自己点検をおこなった旨が報告された。

また、2024年度第3・4ターム開講科目の点検結果については、第2回FD部会（7月16日（水））までのとりまとめがFD委員にお願いされた。

4 授業評価結果の点検の変更について 【資料4】

2024年度開講科目については、自己点検対象科目についてFD委員が当該科目の担当者にヒアリングをおこない、自己点検報告書を作成していたが、2025年度開講科目からは、自己点検対象科目の担当者が自己点検報告書を作成し、所属学科のFD委員に提出する方法への変更が提案された。また、自己点検報告書の書式（資料4）についても提案され、各学科で検討されることとなった。

自己点検報告対象科目の選定基準について、2024年度開講科目については、授業評価アンケートの設問12「総合満足度 本講義の平均値」が4.0未満の科目を自己点検報告対象科目としたが、2025年度以降の開講科目についても上述の基準を用いることで問題ないか各学科で検討されることとなった。

自己点検の実施方法及び自己点検報告対象科目の選定基準については、第2回FD部会（7月16日（水））までに学科の意見を収集し、口頭で報告する旨が説明された。また、2025年度以降、第2回FD部会にて承認された方法に基づいて、自己点検報告を実施することが承認された。

さらに、授業評価アンケートの回答率の低さについて議論された。回答率向上のため、最後の授業で回答時間（10分）を必ず設ける、回答時間を設けない場合は教員にペナルティを与える、学生に単位に影響する等の通知をする等の意見があった。授業評価アンケートの回答時間を確保することについては、授業時間を削って10分確保するのは難しいとの意見もあった。今年度においては、奥井工学部長から授業評価アンケートの回答時間の確保について、教員に徹底するよう注意喚起する旨が確認された。

また、授業評価点検を実施するタイミングとして、教育企画課より授業評価アンケートが

配布された時期と同時が望ましいとの意見があった。アンケート結果と同時に報告書フォーマットも送付されるような仕組みの構築についても意見があった。

5 その他 資料なし

授業評価アンケートについて、どうしても評価のあがらない（あげるのが難しい）科目については、どのように点検報告をするのがよいかという質問があった。その場合は、テンプレートでもよいので、毎年提出するように後藤FD 部会長より意見があった。

また、回答率の高い授業について、回答率向上のための工夫をFD シンポジウムで共有してもらうのはいかがでしょうかと提案された。

（文責 工学部係 井田）

令和7年度 埼玉大学工学部第2回FD部会 議事要録

日時 7月16日(水) 13時00分～13時40分

場所 teams

出席者 後藤 祐一 部会長、安武 幹雄 副部会長、奥井 義昭 学部長、金子 裕良 副学部長、原 正之 教授、本多 善太郎 教授、八木澤 順治 准教授、山口 工学部係長、井田 工学部係員

1 令和7年度第1回議事録の確認 【資料1】

資料のとおり。

2 2024年度後期開講科目「授業評価結果の点検報告書」の報告について 【資料2】

2024年度第3・4ターム開講科目について、設問12「総合満足度本講義の平均値」が4.0未満の科目について、機械工学・システムデザイン学科、電気電子物理工学科、情報工学科、応用化学科、環境社会デザイン学科は学科ごとに自己点検をおこなった旨が報告された。

3 授業評価アンケートについて 【資料3】【資料4】

授業評価点検の実施方法の変更、報告書の書式、点検対象科目の選定基準の意見については、以下のとおり。

<機械工学・システムデザイン学科>

授業評価点検の実施方法の変更および報告書の書式について、反対意見なし。評価基準について、設問12（総合満足度4.0未満）ではなく、設問11（この授業は、あなたの思考力を養うため、あるいは専門知識を高めるうえで役立ちましたか？）の方が適しているのではないかと。設問12を評価基準とすると、課題を多く出した場合に、評価が低くなる。回収率の低さへの対処法として、紙媒体がいいのではないかと。回収の際、先生が触れられないようにするなどの工夫が必要。

<電気電子物理工学科>

授業評価点検の実施方法の変更および報告書の書式について、反対意見なし。点検対象科目の選定基準について、満足度4.0未満とするのではなく、もう少し基準を下げるのがよいのではないかと。自宅自習時間を学生に求めると評価が低くなってしまふ。アンケートの回収方法について、web上で回収するのではなく、紙媒体（マークシート）の方が回収率は上がるのではないかと。

<情報工学科>

授業評価点検の実施方法の変更および報告書の書式について、反対意見なし。アンケートの回収方法について、紙媒体のほうがいいのではないかと。回答率を上げる工夫が必要となる。また、以前まではアンケート結果がPDFで送られていたが、webclassで確認方式に変更になったことにより、アンケート結果の平均値がわからなくなった。

<応用化学科>

授業評価点検の実施方法の変更および報告書の書式について、反対意見なし。アンケート項目について、現状、課題を多くだと評価悪くなるようなアンケートとなっているため、設問を作成し直すべきではないかと。アンケート実施方法について、紙の方が強制的であり、回収率も上がるのではないかと。または、他にアンケートを強制的に実施する方法はないのかを検討してほしい。

<環境社会デザイン学科>

授業評価点検の実施方法の変更および報告書の書式について、反対意見なし。点検対象科目の選定基準について、設問12（総合満足度4.0未満）とすることについて、変更案がでておらず、妥協的に学科で承認された。アンケートの回収方法について、代替案はなし。た

だ、回答率低いため、アンケートとしての的を射た結果となっているのか疑問。

授業評価アンケート結果の平均値について、web 上でアンケート結果を確認する仕様に変更になってからは各教員が確認できなくなっていたが、今年度から各教員が平均値を確認できるように教育企画室に提言していることが、奥井工学部長より報告された。

点検対象科目の選定基準について、設問 12 のままとするか、他の項目とするかは、設問を改めて精査し検討することが後藤 FD 部会長より報告された。今後の検討については、主にメール審議、必要であればオンライン会議を開催する旨があわせて確認された。

工学部・教員研修（FD）ガイドラインの改正について、後藤 FD 部会長より以下のとおり改正案が示され、反対意見なく承認された。

<改正前>

各学科の FD 活動の責任者は、学生による授業評価が数年間（3－4 年）著しく低い教科の担当教員に対してヒアリングをおこない、その授業技能向上に向けての改善計画をたて、実施させることができる。

<改正案>

各学科の FD 活動の責任者は、学生による授業評価が FD 部会の定めた基準を満たしていない教科の担当教員に対して自己点検を実施および報告を求めることができる。

4 FD シンポジウムについて 【資料 5】

工学部教授会と同日の 10 月 24 日（金）と 12 月 19 日（金）に実施することが承認された。

FD シンポジウムのテーマとして、「オンデマンド授業について」とする案が、後藤 FD 部会長より提案された。オンデマンド授業のコツ、実施にあたっての工夫を講演内容とし、FD 部会長と工学部係で講師の検討、選出することが確認された。

5 ベストレクチャー賞表彰について 【資料 6】【資料 7】

受賞候補者について、講義・演習 91 名以上のカテゴリにおいて、受賞者が同一であるため、2 番目に評価の高い授業の担当者を受賞者とすることが確認された。

講演者の選出について、令和 6 年度 FD 部会長の荒居先生のご提案と同様に選出する旨が確認された。荒居先生のご提案は以下のとおり。

1. 講義・演習の受講者数カテゴリ毎に 1 名ずつ（合計 3 名）と実験等から 1 名、総計 4 名に依頼する。最終的に都合が付かなければ 3 名以下でも可。
2. カテゴリ毎には評価点の高い方を優先する。

ただし、複数教員が担当する授業については、講演者が昨年度と異なる教員を選出するよう、後藤 FD 部会長よりお願いされた。

6 その他 資料なし

授業評価アンケートの回答率について、工学部の現状を教育企画室で共有し、回答率向上に向けて検討を提言する旨が、金子副学部長より報告された。また、回答率を上げるために、出欠と連携させる等を提案しているが、他学部が積極的ではないことも、金子副学部長より共有された。

ベストレクチャー賞の算出方法について、回答 3 が最も適切な回答となる項目がある。その場合、3 点が得点（5 点満点中）となってしまうため、項目ごとに算出方法を変更する必要があるのではないかと。

(文責 工学部係 井田)